

之者ニ堅申付候。我等現當爲二世之事ニ候之間、子々孫々迄相替申間敷候。仍爲其永代之寄進狀如件。

永祿十參年午九月廿七日

大塚孫兵衛尉

連 家 在判

能州鈴郡町野庄

岩倉寺拾穀 參

(岩藏寺の所在下町野郷は後世鳳至郡に屬す。されども承久三年注進の能登國田數目錄に珠洲郡とあれば、永祿にも尙同郡たりしと見えたり。)

十月十五日。幕府、勸修寺門跡雜掌をして、同門跡領江沼郡郡家莊を直務せしむ。

【勸修寺文書】 山城

一五二三

勸修寺門跡領加賀國郡家庄代官職事、對下間上野(類志)可被仰付之段、織田彈正忠信長執申之旨依言上、雖被成奉書、非事實之段分明之上者、所詮爲直務如先々可被全領知之由、所被仰下也。仍執達如件。

元龜元年十月十五日

當門跡雜掌

右馬助 在判
左衛門尉 在判

【勸修寺文書】

一五一四

間上野可被仰付之段、織田彈正忠信長執申之旨依言上、雖被成御下知、非事實之段分明上者、所詮爲直務如先々可被全領知之旨、被成奉書訖。存知之、年貢諸公事物等嚴重可沙汰渡彼雜掌、更不可有遲怠之由、所被仰出之狀如件。

元龜元十月十五日

昭 連 在判
爲 忠 在判

當庄名主百姓中

十一月十六日。左近某、田所源二郎に、鹿島郡能登部江尻の田地を讓渡す。

【乘念寺文書】

鹿島郡

一五一五

末代讓申田地之事

合江尻分一圓者

右末代讓申田地者、公方之御供養依不被成、二郎丸左近殿(公形)ヨリ田所之源二郎殿(孫)、江尻分一圓ニ末代讓申處實正也。但代物者廿六俵請取申ニ依、末代讓申候。子々尊々ニ至迄違亂煩申間敷候。仍爲後日之讓之如件。

太郎兵衛 略押

永祿十三年十一月十六日

越 後 略押

太郎左衛門尉 略押

讓主 左 近 略押

其時使ハ番頭

三郎二郎 略押

鳥羽左衛門五郎 略押

田所源二郎殿 まいる

(江尻が鹿島郡能登部下に屬する地名なることは、永祿三年九月十日の條に言へり。公方の何人なりやは明らかならず。この文書は讓渡とあれども實は賣

券狀なり。)

十二月十八日。山城賀茂別雷社、同社領河北郡金津莊御帳の紙數を注す。

【賀茂別雷神社文書】 山城

一五一六

賀州金津庄御帳墨付紙數事

金津村御帳 七牧半

與知村墨付 八 牧

鉢伏村御帳 五牧半

高松村 十壹牧半

内高松村 四 牧

新保村 五 牧

上棚村 十牧半

横山村 八 牧

日角村 三牧半

谷 村 七 牧

已 上

御帳之内ニすミの付タル所有之。